

(6) 大用小学校

学 校 長 池上みどり
校内研究代表者 山脇 昌代

1. 研究主題

「確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成」

2. 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人達に見守られ、明るくのびのびと生活している。少人数の集団の中で真面目に取り組むことができ、友だちにも優しい。しかし、少人数がゆえに、短い会話で意思疎通がすんでしまい、自分の意見や考えをしっかりと言葉にしてみんなの前で発表したり、説明したりすることに課題のある児童が多い。また、他校との交流会ではなかなか自分を表現できないなど、自己表現力やコミュニケーション能力に課題がみられる児童もいる。

平成 29 年度からは、算数科を中心とした授業研究に取り組んできた。昨年度は算数科の授業スタンダードを使った授業を行い、算数用語を意識した説明やまとめ、振り返りを行ってきた。また、家庭学習に予習を取り入れることで、次時の授業に生かす取組も行ってきた。

高知県学力状況調査の結果は国語科、算数科ともに全国平均を上まわることができた。算数科については目標値を上まわることができたが、国語科は目標値を上まわることができなかった。そこで、基礎タイムに言葉のきまりやプリントを使い、基礎学力の定着に努めてきた。

このような実態から今年度は国語科を中心とした授業研究に取り組み、複式授業のスタンダードの確立、「読む力」「書く力」を高めるための取組を行っていく。また、ことわざや慣用句、主語、述語、修飾語などのことばのきまりについては、基礎タイムなどを使って定着を図っていききたい。そして、能力ベースのめあての設定、つけたい力を明確にした授業研究や指導方法の工夫改善に努め、学年に応じた確かな学力の向上をめざしたい。また、帯タイムを活用し、放課後加力学習と連動させながら弱点の克服にも取り組んでいきたい。

思考力、判断力、伝える力の育成に役立つよう教科学習と関連づけて研究を進めてきた新聞の活用は、今年度もふるさと教育と関連づけながら、地域に目を向けた学習につなげていく。そして、体験活動の良さを生かして学校の教育活動を地域に情報発信していける活動としていきたい。

研究仮説

- ・ひとり学びやとも学びを授業の中に取り入れ、言語活動を活発に行う授業を展開することで、表現力やコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ・指導法の工夫改善を行い、子どもの思考過程や言語活動を明確にした授業づくりを行えば、主体的に学び豊かに表現できる子どもが育つであろう。
- ・丁寧な学習指導を行うことで、基礎基本を確実に身につけることができる。基礎基本が身に付ければ、問題文の読解ができるようになり、本校の課題解決につなげることができるであろう。

3. 研究の進め方と方法

①毎月、原則として水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。

ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。

②研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録同様に輪番制で担当する。

③研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。

学習指導案を作成し、全教員で研究授業に臨む。

④研究授業は水曜日に行い、全教員が参観し、反省会をその後行う。

⑤基礎学力の定着と学力の向上をめざすためにチャレンジタイムや放課後の加力を行う。

⑥校内研のはじめに、学級の実態について話し、共通理解を図り、児童の情報交換を行う。

⑦指導力を向上させるために、外部講師を招聘して研究の質を高める。

⑧四万十市複式教育研究会を開催し、教育的力量を高める。

※校内研究推進にあたって共通理解しておくべきこと

- ①子どもの実態に基づいた教育実践を進める。
- ②へき地・小規模校の特性が生かせる特色ある教育活動の創造に取り組む。
- ③教育実践を互いに見つめ合い、検証し合いながら共に教師として高め合う研究をする。
- ④前年度までの実践を継承すると共により良い実践となるよう改善しながら研究を進める。

4. 具体的な取組

① 授業づくり

- ・研究授業（国語科）を全学級が行い、主体的な児童の活動、教師の発問や評価の与え方を研究する。

教科・領域	月 日	学 年	単元名・教材名・主題名
国 語	6月2日	3年	3年 はりねずみと金貨
国 語	6月16日	5・6年	5年 環境について報告しよう 6年 防災ポスターを作ろう
国 語	6月23日	1・2年	1年 あひるのあくび 2年 ことばを絵でつたえよう
国 語	7月2日	4年	4年 走れ
国 語	10月27日	1・2年	1年 いろいろなふね 2年 同じところと、ちがうところ
国 語	10月27日	3年	3年 想ぞうを広げて物語を書こう
国 語	10月27日	4年	4年 読んで考えたことを伝え合おう
国 語	10月27日	5・6年	5年 和の文化について調べよう 6年 町の未来をえがこう
全校道徳	10月21日	1～6年	ひどいよね

- ・言語活動を充実する（ひとり学び、ふり返り、授業後の感想）
- ・資質、能力ベースの「めあて」の提示
- ・大用小スタンダードをつかった授業の流れやノート指導
- ・複式授業等の研究
- ・毎月板書を掲示し交流する。

②全校活動

作文・新聞朝会、クロッキー朝会を通し、意見や感想などを出させる。

③体験活動

縦割り班を活用し、リーダーを育て仲間づくりをしていく。地域の行事（片魚、常六との地域交流・まつり等）では児童主導で活動し、交流をする。

④基礎タイム

基礎学力向上をめざし、10分間学習を継続して行う。（月、火、水は国語、木、金は算数）

⑤加力学習

期間を設定し、放課後40分程度、全教職員で取り組む。

⑥家庭学習

「家庭学習の手引き」をもとに、基礎学力の定着や音読練習、家庭読書、予習等、授業へ向けての学習を習慣化させる。

⑦ふるさと教育

これまでの行事を基本にしながらふるさとの良さを発見する取組を行う。

講師を招聘し、地域について学習する。

⑧ノート活用

定期的にノートを掲示し、取組を共有し合う。

⑨特別支援教育

全学級と教職員に児童理解学習を行う。

⑩新聞活用

新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。

ワークホールに新聞コーナーを設ける。（高知新聞）

新聞朝会を行う。はがき新聞、学級新聞づくりを行う。

読み取った資料をもとに、自分の見方、考え方を広げたり、深めたりする。

授業の中で活用する。高知新聞へ投稿する。

新聞から表現方法を学び、学習のまとめとして新聞づくりを取り入れる。

5. 今年度の成果と課題【成果（○） 課題（●）】

○複式研に向けて、1学期に授業研を全員が行い、指導主事をまじえた指導案検討を複数回、行えたことが国語の研究を進める上で勉強になった。

○吉本先生の講演と資料をもとに「複式の授業スタンダード」を作成できた。

○研究主任を中心に、前もって次回の校内研の内容を確認しながら、計画的に校内研を実施することができた。

○少しずつではあるが、国語に関する授業改善が進み、スタンダードができつつあると思う。

○高知県学力定着状況調査やCRTなどの結果に点数が反映された。

○複式研に向けて、指導主事の先生方に何度も来ていただき、指導案の形式や目標、指導計画、ゴールイメージの書き方やつけたい力の捉え方などを学ぶことができ、とても勉強になった。

○学力テスト等に向けての加力学習では、全教職員が協力して行うことができた。

○国語や言語活動の力をつけるためにプリント集を購入し、チャレンジの時間や宿題などに役立てることができた。

○家庭学習に、予習や家庭読書を取り入れ、連絡帳でチェックできるようにしたことで、きちんと行う児童が増えてきた。

○毎週児童理解の時間を設定し、全教職員が全校児童の実態を共通に理解することができた。

○新聞、作文朝会などを計画的に行っているので、書く力はついてきていると思う。

○作文、新聞朝会では、全児童が、感想や意見を述べることができていた。それは、人の話をしっかりと聞くことができていて、言語活動を充実させるための授業づくりでやってきたことの成果だと思う。

○高知新聞への投稿に取り組み、児童も掲載されて嬉しそうだった。

●「主体的・対話的で深い学び」になる国語の単元構想や授業展開となるためには、新たな取組も必要になり、大変な面も多いが、一致団結して前向きに研究に取り組んでいくことが今年度以上に大切になってくると思う。研究主任を中心に、全教職員が協力的、協働的に研究を進めていければと思う。

●主体的な児童を育てるために、来年度、国語科での学習リーダーの在り方、スタンダードの確立、予習を生かした授業づくり、基礎学力の定着等について、全体で共通理解のもと取り組んでいく必要がある。

●「すぐやる、みんなでやる、それを続ける」に今年度にもまして取り組んでいく必要がある。

●新聞コーナーの活用方法を考えていく。

●日々の授業に追われ、十分な教材研究をする時間が取りにくかった。

●低学年のみつけ学習に対して指導も行ったが内容等難しかった。